

科目名		国語Ⅰ（現代文・古文）: JapaneseⅠ								
学 年	学 科(コース)	単 位 数		必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数			
第1学年	機械工学科 電気工学科 制御情報工学科 物質工学科	履修	2 単位	—	講義	通年 90分／週	60時間			
担 当 教 員		【非常勤】 三浦 美枝 〔副担当〕 薄井 信治								
学 習 到 達 目 標										
科目の到達 目標レベル	教科書掲載の様々なジャンルの現代文、古文の読解や鑑賞を通して、「読む力」「聞く力」「書く力」「話す力」といった、日本語の言語力をみがいていくことを目標とします。 具体的にはそれぞれ作品について、語句の意味、用法および文の構造を理解し、その内容を的確にとらえるように読解していきます。さらにそこに表わされた人間、社会、自然などに対する作者の思想や感情を読み解くことによって、ものの感じ方、考え方を広く豊かにし、さらには人生を豊かにすることを目標にします。									
学習・教育目標		G①		JABEE基準1(2)						
関連科目・教科書および補助教材										
関連科目										
教科書		「精選 国語総合」(三省堂)								
補助教材等		「改訂増補カラー版 新国語便覧」(第一学習社)、「ステップアップ高校漢字問題集」(東京書籍)								
達 成 度 評 価 (%)										
評価方法 指標と評価割合		中間 試験	期末・ 学年末 試験	小テスト	レポート	口頭 発表	成果品	ポート フォリオ	その他	合計
総合評価割合		40	40	10	10					100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】		◎	◎	○	○					
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】		○	○							
汎用的技能 【 】										
態度・志向性(人間力) 【主体性】					○					
総合的な学習経験と 創造的思考力 【 】										
学 習 上 の 留 意 点 お よ び 学 習 上 の 助 言										
現代文については教科書の作品の読解を中心として様々なテーマについて皆で考えていきます。作品の要約や感想を書くことによって、文章力のトレーニングを行います。漢字については、補助教材の漢字問題集より範囲を指定して、定期的に小テストを行います。古文については毎時間作品の音読を行うことによって、歴史的仮名遣いの習熟をはかり、日本語の美しいリズムを味わうことによって、古文に慣れていきます。また、作品を学習する前の家庭学習として、古文のノートへの書写を課題とします。課題については、提出期限を守って提出してください。										

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス	授業の目的、内容を理解する。 ノートの取り方を確認する。	次週学習予定の単元の黙読。
2	随想「ぐうぜん、うたがう、読書のススメ」を読む。	筆者にとっての読書の原体験を理解し、このエッセイで筆者が言いたかったことをまとめる。	自分の読書体験や、これからの読書のしかたについて考え、文章にまとめる。
3	「児のそら寝」(宇治拾遺物語)を読む。	歴史的仮名遣いや、品詞について理解する。	本文の書写と音読。
4	「児のそら寝」(宇治拾遺物語)を読む。	『宇治拾遺物語』についての文学的知識を深め、説話文学を読む面白さを味わう。	古語の語句調べ。
5	「羅生門」を読む。	音読し、全体の構成をとらえ、各段落を要約する。	芥川龍之介について調べる。
6	「羅生門」を読む。	段落ごとに読解し、鑑賞する。	漢字練習。本文の黙読。
7	「羅生門」を読む。	短編小説を読む楽しさを味わい、この小説の主題について考える。	「羅生門」の感想文を書く。
8	前期中間試験	前期前半までの学習内容の到達度を確認する。	試験のための復習。
9	前期中間試験の返却、解答の解説『竹取物語』『かぐや姫の生い立ち』を読む。	解説を通じて、自分の間違った問題について正しい答えを理解する。『竹取物語』についての文学的知識を深める。	本文の書写と音読。
10	『竹取物語』『かぐや姫の成長』を読む。	動詞の活用について、学習する。古語、文法を学習しつつ読解する。	本文の音読と書写。
11	『竹取物語』『かぐや姫の成長』を読む。	物語文学を読む楽しさを味わう。	古語の語句調べ。
12	評論「水の東西」を読む。	「水の東西」を読み、全体の文章の構成をとらえる。	本文の黙読。
13	評論「水の東西」を読む。	各段落の要旨をまとめる。	漢字練習。本文の黙読。
14	評論「水の東西」を読む。	作者の論じる内容をまとめ、日本人の感性について話し合う。	「水の東西」を読んで感じたことを文章にまとめる。
	前期末試験	前期後半の学習内容の到達度を確認する。	試験のための復習。
15	前期末試験の返却、解答の解説	解説を通じて、自分の間違った問題について正しい答えを理解する。	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
16	『伊勢物語』『芥川』を読む。	『伊勢物語』についての文学的知識を深める。助動詞について学習する。	本文の書写と音読。
17	『伊勢物語』『芥川』を読む。	古語、文法を学習しつつ読解する。	古語の語句調べ。
18	表現「スピーチをする」	わかりやすい話し方の基本を学習する。スピーチのテーマを選び、原稿に仕上げる。	スピーチ用の原稿作り。
19	表現「スピーチをする」	クラスで対話型スピーチを実践する。	スピーチの練習。
20	『徒然草』『つれづれなるままに』を読む。	『徒然草』についての文学的知識を深める。助詞について学習する。	本文の書写、音読。
21	『徒然草』『ある人、弓を射ることを習ふに』を読む。	古語、文法を学習しつつ読解する。	本文の書写、音読。
22	『徒然草』『ある人、弓を射ることを習ふに』を読む。	古語、文法を学習しつつ読解する。主題をとらえる。	古語の語句調べ。
23	後期中間試験	後期前半の学習内容の到達度を確認する。	試験のための復習。
24	『土佐日記』『門出』を読む。	『土佐日記』についての文学的知識を深める。日本語の文字表記の歴史を学習し、この作品の文学史的意義を理解する。	本文の書写、音読。
25	『土佐日記』『門出』を読む。	古語、文法を学習しつつ読解する。	古語の語句調べ。
26	短歌「その子二十 短歌十六首」を読む。	短歌の形式や技法について学習する。それぞれの歌を鑑賞し、作者の心情をとらえる。	短歌を読み、好きな歌を覚える。
27	俳句「いくたびも 俳句十六句」を読む。	俳句の形式や技法について学習する。それぞれの句を鑑賞し、作者の心情をとらえる。	俳句を読み、好きな句を覚える。
28	『平家物語』『祇園精舎』を読む。	『平家物語』についての文学的知識を深める。「敬語」について学習する。	本文の書写、音読。
29	『平家物語』『祇園精舎』を読む。	古語、文法について学習しつつ読解し、そこに表された「無常観」について考える。	冒頭文の暗唱。
	学年末試験	後期後半の学習内容の到達度を確認する。	試験のための復習。
30	1年間のまとめ 授業改善アンケートの実施	1年間の学習内容のまとめを行う。 また授業改善アンケートを実施する。	
総 授 業 時 間 数			60 時間

科目名		国語Ⅰ（漢文）（JapaneseⅠ）								
学 年	学 科(コース)	単 位 数		必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数			
第1学年	機械工学科 電気工学科	履修	1 単位	—	講義	前期 90 分/週	30 時間			
担 当 教 員		【常勤】薄井 信治								
学 習 到 達 目 標										
科目の到達 目標レベル		・漢文や漢詩の背景と要点を理解でき、短い説明文が書ける(復習カード、定期試験) ・漢文や漢詩、漢語についての質問に答えられる(口頭試問、定期試験) ・訓点や句法を理解できる(小テスト) ・漢詩の鑑賞文を指定の形式で書ける(レポート)								
学習・教育目標		(G)①		JABEE基準1(2)		—				
関 連 科 目 , 教 科 書 お よ び 補 助 教 材										
関連科目										
教科書		「精選 国語総合」(三省堂)								
補助教材等		「新版初訂カラー版新国語便覧」(第一学習社)								
達 成 度 評 価 (%)										
評価方法 指標と評価割合		中間 試験	期末・ 学年末 試験	小テスト	レポート	口頭 発表	成果品	ポート フォリオ	その他	合計
総合評価割合		30	30	5	15	10			10	100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】		◎	◎	○	○	○			◎	
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】		○	○							
汎用的技能 【 】										
態度・志向性(人間力) 【 】										
総合的な学習経験と 創造的思考力 【 】										
学 習 上 の 留 意 点 お よ び 学 習 上 の 助 言										
漢文は非常に完成度の高い人工言語である。そして訓読漢文は日本人が血肉としてきたものである。訓読によって、省略されることの多い主語や目的語が分かり、品詞や時制が分かるようになる。 日本語は、いつ、どこで、誰が、といったことを曖昧なままで使うことができる言語である。そんな日本語にとって、訓読漢文は外してはならない芯なのである。訓読漢文に親しみ、読めるようになって、日本語の力はさらに上昇するだろう。 授業では、音読と訓点に重点を置く。詩文の背景の説明も詳しく行う。ガイダンスではノートの標準的な使い方を教えるが、各自で書き込み方に工夫を凝らし、復習に生かして欲しい。ちなみに「その他」は「復習カードの提出」である。										

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス 漢文入門①	授業の進め方、ノートを取り方等を理解する。漢文を学習する意味を理解する。現代語を古語にする方法を理解する。	(復習)復習カードを書く。 (予習)小テストの準備をする
2	漢文入門②	古語化の小テストにより、理解を深める。 熟語を訓読する方法を理解する。	(復習)復習カードを書く。 (予習)小テストの準備をする
3	漢文入門③	熟語の訓読の小テストにより、理解を深める。 「借虎威」を読んで、訓読漢文を理解する。	(復習)復習カードを書く。 (予習)小テストの準備をする
4	漢文入門④	「借虎威」の小テストにより、理解を深める。 「蛇足」を読んで、訓読漢文を理解する。	(復習)復習カードを書く。 (予習)小テストの準備をする
5	漢文入門⑤	「蛇足」の小テストにより、理解を深める。	(復習)復習カードを書く。
6	漢詩①	漢詩の読解の仕方を理解する。 鑑賞文の書き方を理解する。	(復習)復習カードを書く。
7	漢詩②	〃	(復習)復習カードを書く。
8	漢詩③	〃	(復習)復習カードを書く。
9	前期中間試験		
10	答案返却・解説 漢詩④	試験解説により、訓読漢文の理解を深める。 漢詩の鑑賞文を書けるようにする。	(復習)復習カードを書く。
11	史話①	「鶏口牛後」(十八史略)をもとに、史話の読み方を理解する。	(復習)復習カードを書く。
12	史話②	〃	(復習)復習カードを書く。
13	思想①	「論語」を読み、孔子の考えや生き方を理解する。	(復習)復習カードを書く。
14	思想②	〃	(復習)復習カードを書く。
	前期末試験		
15	答案返却・解説 まとめ 授業改善アンケートの実施	試験解説により、訓読漢文の理解を深める。 漢文のまとめをする。	
総 授 業 時 間 数			30 時間